

ダビデ契約とは

聖書箇所 1歴代誌17：10b～15

わたしはあなたに告げる。『主があなたのために一つの家を建てる。』

11 あなたの日数が満ち、あなたがあなたの先祖たちのもとに行くようになるなら、わたしは、あなたの息子の中から、あなたの世継ぎの子を、あなたの後に起こし、彼の王国を確立させる。

12 彼はわたしのために一つの家を建て、わたしはその王座をどこしえまでも堅く立てる。

13 わたしは彼にとって父となり、彼はわたしにとって子となる。わたしはわたしの恵みをあなたの先にいた者から取り去ったが、わたしの恵みをそのように、彼から取り去ることはない。

14 わたしは、彼をわたしの家とわたしの王国の中に、どこしえまでも立たせる。彼の王座は、どこしえまでも堅く立つ。」

15 ナタンはこれらすべてのことばと、これらすべての幻とを、そのままダビデに告げた。

※並行箇所 2サムエル7：11b～17

さらに主はあなたに告げる。『主はあなたのために一つの家を造る。』

12 あなたの日数が満ち、あなたがあなたの先祖たちとともに眠るとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子を、あなたのあとに起こし、彼の王国を確立させる。

13 彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしはその王国の王座をどこしえまでも堅く立てる。

14 わたしは彼にとって父となり、彼はわたしにとって子となる。もし彼が罪を犯すときは、わたしは人の杖、人の子のむちをもって彼を懲らしめる。

15 しかし、わたしは、あなたの前からサウルを取り除いて、わたしの恵みをサウルから取り去ったが、わたしの恵みをそのように、彼から取り去ることはない。

16 あなたの家とあなたの王国とは、わたしの前にどこしえまでも続き、あなたの王座はどこしえまでも堅く立つ。」

17 ナタンはこれらすべてのことばと、これらすべての幻とを、そのままダビデに告げた。

I. イントロダクション

- (1) 前回学んだ「土地の契約」は神とイスラエル民族が結んだ「無条件契約」のひとつである。
- (2) その内容は、「イスラエル民族はモーセの律法に従わないために全世界へ散らされるが、やがて、神に立ち返り、約束の地であるユダヤの地へ集められ、繁栄する」という将来の預言である。
- (3) これはアブラハム契約の3つの条項である「土地」「子孫」「祝福」の内の「土地」の条項を発展させたものである。今回は、「子孫」の条項の発展である「ダビデ契約」についてともに学んでみたい。

アウトライン

- 1 ダビデ契約の当事者
- 2 ダビデ契約の条項
- 3 ダビデ契約の現状

結論

- 1 メシアの系図
- 2 メシアとメシア的王国の関係

Ⅱ．本論

1．ダビデ契約の当事者

(1) 神とダビデ

- ① 直前の文脈は、ダビデがイスラエルの王であった時代に、ダビデが契約の箱をエルサレムに移した後、預言者ナタンに神殿の建設を相談した。その時には、ナタンは「王のお好きなようになさって下さい。」と返したが、その夜に主はナタンを通して、ダビデの神殿建設を止められた。その神殿建設中止の預言が語られる中で、ダビデ契約が語られた。

- (2) ダビデはダビデ家の代表として契約主体となっている。よって、この契約はダビデの家系の者たちに引き継がれていく。

2．ダビデ契約の条項

(1) ダビデに永遠の王朝（家）が約束されている。

- ① 2サムエル7：11b、16
 - ② 1歴代誌17：10b
- (2) ダビデの息子のひとりであるソロモンが、ダビデの後に王座を確立する。(2サムエル7：12)
- (3) ダビデではなく、ソロモンが神殿を建てるようになる。(2サムエル7：13a)
- (4) ダビデ王国の王座は、永遠に確立される。(2サムエル7：13b、16)
 - ① ソロモンではなく、「王座」が永遠に確立されると約束された。
 - (5) ソロモンは、不従順の故に罰を受けるが、王座から退けられることはない。
 - ① 2サムエル7：14～15
 - ② サウル王の場合とは異なる。なぜなら、サウルはダビデ契約という無条件契約とは無関係な立場であったからである。
 - (6) メシアとその王座、家系、王国はとこしえに確立される。(1歴代誌17：11～15)
 - ① 神であり人であるメシアが、メシア的王国の王となる時に、ダビデに約束された王座、家系、王国は永遠に確立されることになる。なぜならメシアが永遠のお方だから。
 - (7) 1歴代誌と2サムエルの違い
 - ① 2サムエルの箇所はソロモンに焦点が当てられており、1歴代誌はメシアに焦点が当てられている。
 - ② 1歴代誌では、とこしえに王座を建てるのは、ダビデの子孫として来られるメシアである。
 - ③ 1歴代誌には、罪を犯す可能性についての記述がない。なぜなら、メシアは罪のないお方であるから。

3．ダビデ契約の現状

- (1) 無条件契約であるため、現在も有効である。
- (2) メシア的王国（千年王国）の到来を保証する契約である。
 - ① メシア的王国では、メシアが再臨された後、地上で王として統治される。

Ⅲ. 結論

1. メシアの系図

- (1) ダビデ契約は、アブラハム契約の子孫に関する条項が発展したものである。
 - ① アブラハム契約では、子孫の量的な増加が約束されていた。(創世記13:16、15:5など)
 - ② ダビデ契約にある、ダビデの子孫として来られるメシアの統治によって、イスラエル民族は非常に人口が増える。
- (2) メシアは、女の子孫として来られる。(創世記3:15)
- (3) メシアは、アブラハムの子孫から出る。(創世記12:3b)
- (4) メシアは、アブラハム、イサク、ヤコブの子孫から出る。(創世記26:24、28:14)
- (5) メシアは、12部族からでる。
- (6) メシアは、ユダ部族から出る。(創世記49:10)
- (7) メシアは、ダビデ契約により、ユダ部族の中のダビデの家系から出ることになる。
 - ① ダビデの息子ナタンの子孫である処女マリヤから生まれた。
 - ② ダビデの子孫であるエコニヤの子孫から出たヨセフはイエスの義父である。(エレミヤ22:28～30)

2. メシアとメシア的王国の関係

(1) 設立のタイミング

- ① メシアは、大患難時代の最後に地上に王として再臨される。
- ② 大患難時代は7年間の地上の悪への裁きの時である。特に、イスラエル民族への裁きと同時に、その中から悪を除く期間である。
- ③ 大患難時代の始まりは、将来のある時点で、反キリストとユダヤ人の代表が7年間の安全保障に関する条約を結ぶ。その契約締結から7年間である。
- ④ 大患難時代の終わりに、イスラエル民族は民族的回心をし、その時生き残っているユダヤ人達はすべてイエスをメシアと告白する。
- ⑤ このことが起こって、メシアが再臨される。
- ⑥ メシアは、反キリストの軍勢を滅ぼされ、メシア的王国を確立される。

(2) 特徴

- ① メシアが、王として、エルサレムから全世界を直接統治される。
- ② その期間は千年間である。(黙示録20:4) ここから千年王国とも呼ばれる。
- ③ この時代に従うべきは、御国の律法である。今の教会時代はキリストの律法が与えられている。
- ④ 新たにメシア的王国での祭儀制度(神殿でのささげ物、例祭など)が開始される。(エゼキエル44:1～46:24)
- ⑤ 我々教会時代の聖徒も諸国を統治する役割を与えられる。

IV. 今月の祈りの課題

ハーベストタイム・ミニストリーズ『月刊ハーベスト・タイム』2017年12月号、3頁より

「メシアニック・カルメル会衆（ハイファ）― 「禁じられた章― イザヤ53章」の動画は、ヘブル語を話すイスラエル人70万人を含めて350万人以上の人々にインターネットで視聴されている。この動画を通して多くのイスラエル人がイエシュア（イエス）を信じるようになっている。現在制作中の「偉大なるユダヤ人のリーダー」では、イスラエル人に対する街頭インタビューを試みている。この動画の狙いは、すべてのユダヤ人にイエシュアがどのような方であることを示し、長年にわたってユダヤ人が誤解してきたイエシュアの人物像を払拭し、本当のご性質を知ってもらうことである。イエシュアに関する聖書箇所を朗読すると、多くのイスラエル人は驚いて「この人ってメシアみたいだ」、「これは、すごい人だ。こんな人に会いたいよ」、といった感想をもらす。そして、インタビューの最後にこの人がイエシュアだと知らせると、みな愕然としてしまう。多くのイスラエル人が本当のイエシュアを理解できるようにお祈りください。」

- (1) 特に宗教的なユダヤ人は、ラビから新約聖書は触れることすら禁止されており、内容自体を知らない。
- (2) また、イエス様ご自身についても、「悪霊につかれた偽預言者である」と教えられている。これは、イエス様の公生涯で起こった「ベルゼブル論争」の時から変わっていない。
- (3) しかし、この証しのように、名前を伏せてイエス様のご生涯を伝えたと、旧約聖書を深く学んでいるユダヤ人であれば、「その人はメシアのようだ」という感想が返ってくる。
- (4) ユダヤ人の霊の目が開かれて、ユダヤ人の王であり、救い主であられるイエス様を信じるように祈ろう。また、このお方は、異邦人である私達にとっても王であられ、救い主であられる。主がすぐに帰って来て下さるように、また、帰ってくるまでの間、主の命令に忠実に歩むことができるように祈ろう。